

## 第 21 回目

「この艱難の日々の後、天に人の子ご自身が現れるでしょう。」

1974年11月1日(金) 諸聖人の祝日、礼拝堂にて

この日、私は教会の朝8時からのミサに行きました。

15時30分頃、1時間私は御聖体を礼拝するため教会に戻りました。

私の夫は、私が夜の聖体降福式に出掛けることを許しませんでした。私は決して出掛けませんでした。なぜなら、その時間は家族の食事の時間で、私は家を離れることができないからです。けれども、私の幼い娘ギスレーヌが、諸聖人のミサに行っていないので、20時からの聖体降福式に私と一緒に来ました。

司祭が祝福のため聖体顕示台を掲げたその瞬間、いつものように、御聖体のある場所に光の輪が形作られました。

前回と同様、私は誰も見ませんでした。キリストも見ませんでした。けれども御聖

体は光の筋できらきら輝いていました。次のような声を聞きました：

「次ことを大きな声で言って下さい。」(私は大声で繰り返しました)

“*Dicite in nationibus*”(諸国の民に伝えなさい。)

「神が、仕える者の口を通して語られた、と諸国の民に伝えなさい。神は彼女に、大艱難が近いことを明らかにしました。なぜなら彼女は、人の子のしるしが東から西へと渡るのを見たからです。この人の子のしるしとは、主の十字架です。

あなた方に言いますが、まことに世界が悔い改める時が来ています。なぜなら世界が始まって以来今まで見たことのないような、またそれから後見ることのないような、全世界的変化が近く起こるからです。

予告されている大干ばつが世界を襲う時、神が掘らせられた池のみが水をたたえることでしょう。この水は飲むためではなく、そこであなた方が清めのしるしとして身を洗うためにあるのです。そして、あなた方は神が教会に建てるように、と頼んでおられる栄光の十字架の足元で悔い改めに来るのです。その時には、世界中の諸国民が嘆き悲しみ、この栄光の十字架の元で彼らは平和と喜びを見出します。

このような艱難の日々の後、世界の四隅から選ばれた者を呼び集めるため、大いなる尊厳と全能を持たれた、人の子ご自身が天に現れるでしょう。

悔い改める者は幸いです、何故ならその人は永遠の命を得るからです。

まことにあなた方に言いますが、天と地は過ぎ去ろうとも、私の言葉は決して過ぎ去ることがありません。」

最後に、私から去られる前、主は繰り返し言うようにとはおっしゃらないまま、こう言われました：

「彼らに言いなさい、神ご自身のしるし以外のしるしはないであろうと。唯一目に見えるしるしは、主に仕える者(マドレーヌ)の態度と、神の御言葉である彼女が語る言葉です。それらの御言葉は一点の反駁の余地もありません。もしも人が栄光の十字架を建てないならば、私がそれを立ち現すでしょう。けれどももはや時間はありません。」それから光は消えました。

そこで私は立ち上がり、御聖体の前にひざまずきました。

この時、私は聖体顕示台から光の筋が流れ出すのを見ました。その光の筋は、生きているようで、光の泉であるかのように、聖体顕示台から絶えず新たに繰り出されてきました。(説明するのがとても難しいのですが。) 聖ミカエルは少し左によって、常にその場にいました。彼は言いました：「幼いダビッドのことについて、悲しんではいけません(8)。神がそのようになることを望まれたのだとしたら。それは彼自身の目が閉じられているためではなく、信仰の光に向かって目を閉じている彼の両親のせいなのです。主があなたから最後に立ち去られた場所に、ろうそくを置きなさい。」

大天使が私に語っている間中、御聖体からは絶えず光の筋が流れ出ていました。それから全てが消えました。

⑧ 幼いダビッドとは、マドレーヌ、ロランドの孫息子。

1974年10月最初の金曜日

イエスは姿を現されませんでした。

## 第 21 回目

「この艱難の日々の後、天に人の子ご自身が現れるでしょう。」

1974年11月1日(金) 諸聖人の祝日、礼拝堂にて

この日、私は教会の朝8時からのミサに行きました。

15時30分頃、1時間私は御聖体を礼拝するため教会に戻りました。

私の夫は、私が夜の聖体降福式に出掛けることを許しませんでした。私は決して出掛けませんでした。なぜなら、その時間は家族の食事の時で、私は家を離れることができないからです。けれども、私の幼い娘ギスレーヌが、諸聖人のミサに行っていなかったので、20時からの聖体降福式に私と一緒に来ました。

司祭が祝福のため聖体顕示台を掲げたその瞬間、いつものように、御聖体のある場所に光の輪が形作られました。

前回と同様、私は誰も見ませんでした。キリストも見ませんでした。けれども御聖

## 第 22 回目

「主は私の目の前に姿を現されました... 何もおっしゃいませんでした。」

1975年2月14日(金) 四旬節の最初の金曜日 15時

いつもの金曜日と同様に、私は礼拝堂へろうそくを立てに行きました。礼拝し始めてしばらくの後に、主がいつものように、光の輪の後ろで私の目の前に姿を現されました。

でも何もおっしゃいませんでした。

私は約10分ほどの間そのまま礼拝していました。そして全てが消えました。

この日イエスが姿をお見せになった後、この四旬節の期間毎週金曜日にお現われになるような予感がしました。私は礼拝堂にたったひとりでした。

## 第 23 回目

「神の名によって、また神によって、あなたが預言したのだ、と司祭に告げなさい。」

1975年2月21日(金)15時、礼拝堂にて

私は礼拝堂に15時に行きました。主任司祭はそこにいました。

15時10分、主が私の目の前にお現れになりました。私に微笑まれた後、真剣な調子でおっしゃいました：「神の名によって、また神によって、あなたが預言したのだ、と司祭に告げなさい。それから司祭は、確信と謙虚さを持ってこのメッセージを達成する責任者達に渡すように言いなさい。何故なら私が頼んでいることを行うには、ほんの少しの時間しか残っていないから。」主は私に微笑まれました。私は主に言いました：「あなたに再びお目にかかれるなんて、なんという喜びでしょう。あと何度、私はあなたにお会いできるのでしょうか？」主は長い間私に微笑まれていましたが、この質問にはお答えにならず、数秒の後全てが消えました。



## 第 24 回目

「今の時代はこれまでで最も偽善的で、墮落している。」

1975年2月28日(金) 15時～15時30分、礼拝堂にて

光の輪が形作られ、いつものようにイエスがお現れになりました。けれども両手はいつもと違って体に沿っておろしておられました。主は私に微笑まれ、胸の上に左手を置かれ、祝福するかのように右手を挙げられました。その御顔は優しさに溢れ、その表情と目は深い穏やかさをたたえていました。数秒の後、彼は言われました：

「司祭に言って下さい：私は私の慈悲を人々の心の中に注ぎ込みたい、まずはこのメッセージを知っている人々に、ついで世界中の人々に。栄光の十字架を立てる責任を負った者達は、盲目ではないように。何故なら、暗闇から光の元へと呼ばれたこの預言者(マドレーヌ)以外のしるしはもはや示されないから。まことに、しるしに関して言えば、これ以外のしるしは示されません。何故なら今の時代はこれまでで最も偽善的で、墮落しているからです。」

私から去られる前、イエスは両手を体に沿っておろし、私に微笑まれ、そして消えられました。

## 第 25 回目

「この聖別された神聖な都は守られるでしょう。」「謙虚でありなさい、

けれどもあなた自身のためにいかなる援助も受けてはなりません。」

1975年3月7日(金) 16時、礼拝堂にて

光が現れて、イエスがその後姿を現されました。私に微笑まれて、言われました：

「司祭に伝えてください(この時彼は主任司祭をご覧になった)。この聖別された神聖な都はあらゆる艱難から守られるでしょう。私が教えた祈りを、ロザリオの祈りと合わせて毎日唱える家は特にそうです。」

それから、主は主任司祭の方向を見るのをやめて、私をご覧になり、私に向かって両手を伸ばされ(右手は左手より先に延ばされていました—私にはその手の平が見えました)、私に言われました：

「私はあなたに伝えることがあります。」

(主は私に微笑まれました。何と私は嬉しかったことか！)

「謙虚でありなさい、けれどもあなた自身のためにかなる援助も受けてはなりません。あなたはこの世には何ら期待するものがありません。けれどもあなたの喜びは、別の世で途方もなく大きいことでしょう。」

イエスは両手を下ろされ、すべてが消えました。

主任司祭は、私に主の現れは毎回どれくらいの間続くのかと尋ねました。私には過ぎ行く時間の長さがわかりません。主の訪れの後、私は年を取らなかったような感覚を持ちます。それから私は地上に、暗闇の中に戻って来るように感じるのです。

## 第 26 回目

「マドレーヌ、たゆまず祈り、断食しなさい。」

1975年3月14日(金) 15時、礼拝堂にて

光が見えました。主が、右手を胸に、左手を体に沿って下ろした姿勢で、お現れになりました。主は私に微笑まれ、大きな声で繰り返すように、とはおっしゃらないまま次のように言われました：

「マドレーヌ、たゆまず祈り、断食しなさい。」

恐れることなく、あなたに対する嘲笑や悪口に耐えなさい。何故ならあなたの口から発せられた言葉を信じる者が少ないからです。けれども司祭は、あなたの顔には目に見えないものの臨在が反映されていると、認めることでしょう。

この断食の日々の後、あなたにはある重い責任が課せられます。」

私はこの責任がどのようなものなのか心配になったので、主に尋ねました：「けれどももしも私がその責任を果たすことができなかつたら？」

イエスは答えられました：

「もしも私があるあなたにある果たすべき責任を与えるならば、あなたはそれを成し遂げることができるからです。」

私から去られる前、イエスは言われました：

「あなたに以前教えたように、両手を胸の上で合わせなさい。」

イエスは私に微笑まれ、姿を消されました。その眼差しは優しさ、たとえようのない慈しみに満ちています。誰もこのように透明な、子供の眼差しよりも透明な眼差し

を持った人はいません。その御顔にはしわが全くありませんが、輪郭はとてもはっきりとしています。年齢は30歳台に見えます。主を見る人は誰でも、主は肉体であると同時に霊であるという印象を持つでしょう。しかもその霊といたら！純粋さ、透明さ、神聖さがその身体全体に透けて見えるようです。主は語る時、決して言葉を捜すことなく、決して間違ふことなく、決して言いよどんだりなさいません…。私が見たあの十字架のように純粋で明確です。それは、影のない明瞭さ、しわのない鮮やかさ、しみのない透明さ。とても言葉で定義できません。また私が初めて主の御臨在を感じた聖体拝領の際に心に感じる喜びも、言葉では表現できません。

### 第27回目

「明日9日間祈禱を始めなさい。」

1975年3月21日(金) 15時30分、礼拝堂にて

イエスはいつものように、私を迎えるかのように両手を差し出した姿勢でお現れになりました。そしてこう言われました：

「私があなたに依頼する仕事に備えるため、明日9日間祈禱を始めなさい。この9日間祈禱は、私があなたに教えた祈りとそれに続くロザリオの祈りと合わせ、1日にひとつの玄義から成ります。この祈りを、心静かに、謙虚な気持ちで行いなさい。」

私は主に尋ねました：「主よ、いつ、あなたは私が果たすべき仕事のことを私にお知らせになるのでしょうか？」

主は答えられました：

「聖金曜日に。」 それから私に微笑まれ、姿を消されました。

### 第28回目

「人の子のしるしである栄光の十字架によって、この世は救われます。」

1975年3月28日聖金曜日—ドズレの小教区教会にて

私はこの日、主が私を訪れてくださる、と知っていました。何故ならこう言われていたからです：「私があなたに依頼する仕事のことは聖金曜日に知らせる。」

朝、ドズレには雪が降りました。

午前中、私は礼拝堂に行きました。私は主任司祭に出会いました。彼は言いました。「礼拝堂に行くのですか？今日は礼拝堂ではなく教会で御聖体のミサがあるのですよ。」そこで私は 11 時頃、教会に行きました。主は現れてはくさいませんでした。

私は十字架の道行のため、再び 15 時に教会へ行きました。主はこの時も現れてくさいませんでした。それから 17 時ごろ、主は現れず、夜は教会に多くの人が集まるので、私は少々危惧していました。夜 20 時 30 分に私は教会へ再び赴きました。教会内には、受難ミサに参加するため約 50 人ほどの人が集まっていました。突然、私は自分の席から、いつも主の訪れの前に見るように光が現れるのを見ました。「この時、その光は主祭壇の聖櫃のある場所ではなく、教会の奥、この聖金曜日の日御聖体が置かれている別の聖櫃のある場所に。」

主はいつものように、両手を私のほうに差し出して姿を現されました。

私はひざまずきました。主は言われました：

「次のことを大きな声で言って下さい：なぜあなた方は、十字架刑にされたイエスの死を嘆くのですか？今日、イエスはあなた方の中に生きておられるというのに。むしろ、昨日よりもより熱心に、彼を迫害する者達のために祈りなさい。」それから：

「3 歩下がりがなさい。両腕を十字に掲げて、私があなたに言う言葉を繰り返してください。」

この時、イエスは両手を組まれました。祈るかのように両目を天に向けられました。その目は真剣で悲しそうでした。私はその悲しみを感しました。私は大きな声で繰り返しました、ひとフレーズづつ主が私に言われた通りに：

「我が神よ、憐れんでください。あなたを冒瀆する者を。彼らをお赦しください。彼らは自分のしていることが分かっていないのです。」

「我が神よ、憐れんでください。この世の不正を。彼らをサタンの霊から解放してください。」

「我が神よ、憐れんでください。昨日よりもより執拗にあなたを迫害するもの達を。あなたの慈悲を人々の心の中に注ぎ込んでください。」

それからイエスは両手を下げられました。この時、私はひとつの球を見ました。そ



の球の上に主は両足を乗せておられました。彼はその場に集まっている人々に向かって、両手をかなり高く広げられました。彼の両手から、その両手の平から、光の筋が流れ出ました：白と赤の光の筋が。この間中、主はその場にいる人々をご覧になっていました。そして私に言われました：「彼らに次のことを言って下さい」(私は大きな声で繰り返しました)

「ナザレのイエスは死に打ち勝ったこと、その支配は永遠であること、イエスはこの世と時に打ち勝ちに来る、ということを知りなさい。」

私は大きな喜びを感じました。私は主がこの地上を支配しておられる、と感じました。私には、主が力と栄光の内に来られたように思えました。何故なら主がその両足を乗せておられる球は、地球だったからです。それから主は次のような言葉を私に語られました。私は大きな声で繰り返しました：

「マドレーヌが3年前のこの日に見た栄光の十字架、それは人の子のしるしですが、この栄光の十字架によって、この世は救われるのです。」

今この時、私達の中に御臨在のイエスが、この栄光の十字架が現れた場所へ全員行列をして行くように、と依頼しておられます。

そこへ行って悔い改めなさい、そこにあなた方は平安と喜びを見出すことでしょう。

— イエスは毎年この日には、荘厳なお祝いをそこで行うように、と望んでおられる。*Notum fecit Dominus a Magdalena Saluem Suam*” (主はマドレーヌを通してその救いを知らしめられる)

それからイエスは私に言われました：

「自宅に帰ったら私がこれからあなたに言うことを書き留めてください。」

主は私に個人的に話されたので、私は大きな声で繰り返しませんでした。

この時、イエスは私をご覧になり、私に微笑まれ、私に向かって右手を差し出されました。地球は消え、その時までその両手から流れ出ていた光の筋も、消えました。

とても優しい眼差しで私をご覧になり、私に言われました：

「あなたは選ばれていたのです、マドレーヌ、私の愛を映し出す鏡となるように。

そのために、あなたの心は燃えていたのです。

この栄光の日の後、ひとつの重大な仕事を成し遂げてくださいますか？」

私は大きな声で言いました：「あなたの御心がなりますように。」そこで、イエスはこのように言われました：

「私があなたに教えた祈りを、320回書いて、私の使徒となってください。

この街の境界線まで、各家庭を回って、ナザレのイエスが死に打ち勝ち、彼の支配は永遠で、この世と時に打ち勝ちに来る、と言いついてください。」

それから彼は私に言われました：

「次のことを大きな声で言って下さい。

あなた方は、一つ一つの事件が書かれた言葉のしるしである時代に生きています。」

それから、大きな声で繰り返すように、とはおっしゃらないまま：

「私は彼らが毎日この祈りをロザリオの祈りと共に唱えることを望みます。

この祈りを、大きな確信を持って唱える家庭は、あらゆる艱難から守られるでしょう。そして私は彼らの心に、私の慈悲を注ぎ込みます。もしも人があなたに、誰があなたを遣わしたのか、と尋ねたら、それはナザレのイエス、蘇った人の子だ、と答えなさい。思い出しなさい、あなたに対する侮辱、悪口、嘲笑を恐れてはいけません。あなたは私の名のために憎まれるでしょう。けれども最後まで耐え忍びなさい。」

「もしもあなたが望むなら、ひとりの人があなたに付き添うようにしなさい。あなたはこの仕事を成し遂げるためあなたの時間全てを使うことができます。あなたの家庭がそのために被害を受けることはありません。何故ならこの最も重大な聖年は、栄光の十字架が建てられてからでなければ終わらないからです。けれども、それを建てる責任を負っている者は急いでそれを行うように。なぜならば、時が近いからです。あなたに対してドアを閉じる家庭には、再び訪れないように。」

「次のことを大きな声で言って下さい。(イエスは私に言われました)

罪が、人によって、この世に入って来ました。だからこそ私は人に、栄光の十字架を建てるように、と依頼しているのです。彼らに言ってください。後に私は栄光の内に再び来ます。そしてあなた方はこの私に仕える者が私を今見ているように、私を見ることでしょう。」

それからイエスは姿を消されました。私は立ち上がって、教会の中に自分がいることに気づきました。私が戻って行って、その場にいる人々を見た時、全ての目が私に

向いていることに気づいて、私は元の席に戻ることができませんでした。主任司祭が合図して、私に後ろの脇席に着つくよう指示しました。自宅に戻ってから、私は私が私に書き留めるように、と望まれたことを書きたかったのですが、家族全員がそこにいました。私はとても書けないと見て取り、後になると忘れてしまうのではないかと恐れました。ところが突然、家族全員が寝るために上がって行きました。後には二人の末の子供、ギスレーヌとブルノしか残っていませんでした。そこで私はイエスが私に言ったことを書き留めることができ、翌日そのメモを主任司祭に渡しました。⑨

□⑨ 20時30分からの受難ミサの後で、司祭はそこにいた50人あまりの人々に、彼らが見聞きし、理解しなかった事については黙っているように、と強く薦めた。



## 第 29 回目

「司祭に言ってください。私は世界中の人が、このメッセージを知ることを望むと。」

1975年4月11日(金) 15時、礼拝堂にて

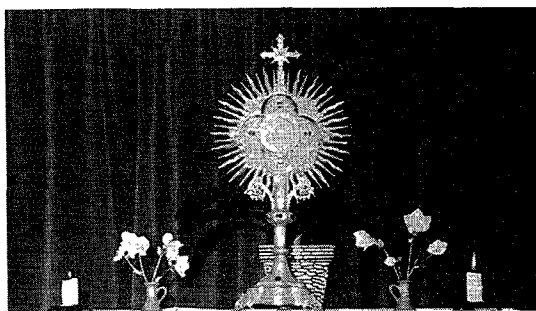
15時に、私は主を礼拝しろうそくを置くため、礼拝堂に行きました。

わたしはひとりでした。光が目の前に現れて、突然主が、いつものように両手を私の方に差し出した姿勢でお現れになりました。主は私に微笑まれ、言われました：

「司祭に言ってください。私は世界中の人が、このメッセージを知ることを望むと。」

司祭達は隠さずに、恐れることなく語らなければなりません。何故なら、明らかにされるべき事は、一つも隠されてはならないからです。」

それから、イエスは私に微笑まれ、姿を消されました。



## 第 30 回目

「絶え間ない再生」

1975年5月2日(金) 17時45分、礼拝堂にて

私は17時45分、礼拝堂にひとりでいました。

私は主の訪れの前にいつも現れる光の輪を見ました。それから突然、前二回の時に起こったように、聖体顯示台が周りに赤と白の光線を発しました。この光線は太陽の光のように不動ではなく、絶え間ない再生を繰り返し、動いていました。

私は御聖体の前には行きませんでした。そこへ行ってひざまづくように招かれている気がしなかったのです。この状態が約3分続きました。メッセージも声も聞こえませんでした。けれども、聖体顯示台は消え、その光の中に見えなくなっていました。

## 第 31 回目

「私は栄光の十字架の足元に来て悔い改める者達を私の父の霊において蘇らせます。」

1975年5月30日(金) 15時、礼拝堂にて

光が見えました。続いて、イエスが目の前に姿を現されました。その眼差しは、優しさの極みです。主は私に言われました：

「司祭に言ってください。今はもはや私が体を蘇らせる時ではなく、霊を蘇らせなければならぬ時だと。今のこの世にあって、私の名により、体を蘇らせ癒すのだ、と言いつける者達は、天におられる私の父にふさわしくありません。⑩

マドレーヌ、行って私のメッセージをドズレで告げ知らせなさい。

私があなたに成すように、と頼んだ仕事を、あなたはやり遂げなければなりません。恐れてはいけません、私はあなたに力を与えます。」

イエスは私に微笑まれ、続けて言われました：

「この都を、私の父は聖別し神聖なものとしました。誰でも栄光の十字架の足元に来て悔い改める者は、私が、私の父の霊において蘇らせます。彼らはそこに、平安と喜びを見出すでしょう。」

それから、イエスは私を真剣な様子でご覧になり、言われました：

「メッセージを持ってあなたにくちづけする最初の修道女は、あなたの口から発せられた御言葉を信じません。彼女はあなたを低く見えています。そのことにはこだわらないように。思いやり深くありなさい。」 それからイエスは姿を消されました。

⑩ この言葉はマドレーヌを驚かせた。彼女はオルセ司祭にこの言葉を告げたが、彼はアミアンから1通の手紙を受け取ったばかりであった。彼はその手紙を彼女に読んで聞かせた。アンは次のように書いていた：

「私はあなたのことを知りません。けれどもペンテコステの日にドズレを通り過ぎながら私の心の中に教会に入りたいという思いが起こり、それ以来私はドズレのキリストのことしか頭にない、ということをお知らせしたいと思います。」

私は病人です(白血病)。周りはそのことを隠していますが、私は全て知っています。けれども私の病の癒しのためにはではなく、信仰を持っていない私の両親が回心するように折ってください。何故なら、私自身は、心は死に、霊が私の救い主イエスにあって目覚めたのを感じるからです。